

第3章 第4次推進計画における具体的施策

基本方針1 家庭、図書館、学校等における読書活動の推進

施策(1) 「^{うちどく}家読」の推進

① 児童書の貸出の推進

子供が本に興味や関心を持ち、読書の喜びを体験するには家庭の果たすべき役割は大きなものです。特に乳幼児期は保護者からの積極的な働きかけにより、子供は言語を獲得し、想像力を伸ばし始めます。そして、家庭の中で読み聞かせや本を媒介とした会話や遊びを繰り返すことにより読書習慣が形成されます。



家庭の中に常に本がある生活とするため児童書の貸出を推進します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
児童書の個人貸出冊数(単年度)	733,453冊	750,000冊

② 新たな安城版ブックスタート事業の実施

子供の読書の重要性を保護者一人一人に丁寧に伝え、「家読」の習慣を育てるため、安城版ブックスタート事業を継続します。

平成25年8月から開始された安城版ブックスタート事業は、保健センターの4か月児健診時に、読み聞かせの実演とともに、その意義や重要性



を一人一人の保護者の方に伝え、我が子に最適な赤ちゃん向け絵本を4冊の中から1冊を選んでいただき、南吉絵本と一緒に配付する事業です。

令和2年度に行ったアンケートでは「絵本を読んだ時の子供の様子が見られてよかった」「赤ちゃんが絵本に関心を示すことが分かった」「子供とのコミュニケーションに役立ちそうと感じた」等に多くの方が賛同しており、大変好評な事業となっています。

なお、配付する南吉絵本は、本市が主催する「安城市新美南吉絵本大賞」の大賞

作品です。令和5年度には、第3回安城市新美南吉絵本大賞の大賞作品を新たに出版、配付します。赤ちゃん向け絵本に加えて、新美南吉作品の絵本を配付することで、郷土にゆかりの童話作家新美南吉の顕彰を図るとともに、保護者の方へのブックスタートの意味も込められています。

また、ブックスタート時には「赤ちゃんえほんかしだし隊」として、絵本の貸出や、赤ちゃんや保護者の方への利用者カードの発行、市内の子育て支援施設の案内等も行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により事業活動が大きく制限されました。今後は、国が公表した「新しい生活様式」等に合わせた事業の実施を目指します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
「新しい生活様式」等に合わせた 安城版ブックスタートの実施	検討	実施

施策(2) 図書館等(図書館・公民館図書室・あんぱ〜く・KEYPORT・あんステップ)における読書活動の推進

③ 乳幼児を対象とした事業の充実

乳幼児と保護者に対して、読書活動への関心を高め、読書のきっかけを提供するために、乳幼児向けおはなし会を継続します。

図書館だけでなく、子供たちの身近な施設である公民館等でも読み聞かせボランティアによるおはなし会を継続していきます。



【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
図書館等での乳幼児向けおはなし会の 開催回数(単年度)	250回	290回

④ 小学生を対象とした事業の充実

小学生の年代は、本を一人で読めるようになり、自分の読みたい本を豊富な資料の中から自由に選び、読書の楽しさを知ることができる年代です。図書館は、そんな子供の自主性や個性を尊重しながら、その子にふさわしい本を手渡す重要な役割

を果たすため、さまざまな取り組みを実施します。

図書館では、絵本を読んでもらう「読み聞かせ」から、絵のない本を一人で読むことへのスムーズな移行を助けるため、耳からの読書を楽しめる「ネコ・ロンデ朗読会」を継続します。また、小学生の来館が増加する日曜日や夏休みには、「にちようびのおはなしかい」「夏休み毎日おはなし会」を開催し、子供たちが本に親しむきっかけ作りとします。



さらに、子供が本や図書館への関心を持つきっかけとなるような多様な事業に取り組みます。「でんでんむかしあそびの会」では、初対面の子供たちでも一緒に楽しく遊べるお手玉遊びを中心に、絵本の読み聞かせや紙芝居など行い、同世代の子供と同じ楽しみを共有する機会を提供します。また、お気に入りのぬいぐるみとともに図書館や読書を楽しむ「ぬいぐるみのおとまり会」は人気の事業として定着しています。

今後もこれらの事業を継続するとともに、アンフォーレ指定管理者^{*15}と連携した子供向けの読書に関する事業や、アイデアを駆使した新しい事業の拡充を図ります。また、子供の自主的な読書や学習を支援するため、各種リストやパスファインダー^{*16}の作成、テーマ展示等も継続します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
図書館での小学生向け事業数(単年度)	7事業	10事業

⑤ 中学生・高校生を対象とした事業の拡充

中学生、高校生の年代には、自身の将来を視野に入れた自主的、意欲的な読書活動や主体的な学習活動を支援することが重要です。

毎日新聞東京本社発行の『読書世論調査』(2019年版)では、1か月に1冊も本(教科書・漫画・雑誌を除く)を読まない中学生は、ここ10年ほどは15%前後で推移していますが、高校生になると、50%前後となり、読書から遠ざかる傾向が続いています。一方、スマートフォンの所有、利用状況は年々増加しており、コミュニケーションや情報収集の方法が大きく変化していることが分かります。

図書館では、「らBooks」の一つのジャンルとして「YA」(ヤングアダルト向け)を設け、この年代の興味・関心に合わせた図書を配置しています。蔵書回転

率（貸出冊数÷開架蔵書数）は一般書が3.2回転のところ4.2回転、「らBooks」全体では7.0回転と大変高い利用となっています。また、今後もさらに貸出を促進するため、中高生に向けた図書の展示「らぶフェス」等を継続します。

学校図書館との連携については、市内小中学校との連携は強化されましたが、高校とは「らBooks」の新刊案内を送付するに留まっています。今後もこれを継続するとともに、新たな連携方法を検討します。



また、本を介した交流や居場所としての利用を進めるため、図書情報館3階ディスカッションコーナーを中心として、マナーを守った上での会話・飲食ができる環境を継続します。

内閣府政策統括官主催の「令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査」調査結果（速報）（令和2年3月）によれば、インターネットの一日の平均利用時間は、中学生では176分、高校生では248分と長時間に及びます。そこで、この世代に焦点を絞ったインターネットを利用した情報発信も検討します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
市内高校との新たな連携	検討	実施

⑥ 来館が困難な子供たち、外国にルーツを持つ子供たちへの事業の実施

図書館のサービスは、市内在住の全ての子供たちに行うことが求められます。

平成29年度より市内の小中学校との連携を強化したことにより、子供たちの読書環境、学習環境は大きく改善されましたが、図書館等への来館や登校が困難な子供たちもいます。そこで、それらの子供たちにも読書の喜びと楽しみを届ける事業を新たに実施します。



市内には不登校児童・生徒のための「ふれあい学級」※17があります。ここへ図書情報館職員が定期的に出向き、読み聞かせやブックトークを行うとともに団体貸出を行う「アンフォーレがやってくる」事業を継続します。また、図書情報館を居場所とし、読書の機会を提供するため、グループ学習室を利用した「アンフォーレに 行ってくる」事業も継続します。

また、様々な楽しみから遠ざかりがちな長期入院の子供たちへ、安城更生病院、

八千代病院と協議し、サービスの検討を行います。

市内には外国にルーツを持つ子供たちが約1,600人（令和元年度末）います。それらの子供たちに向けて、日本語習得のための資料コーナーを図書情報館に新設するとともに、外国人向け子育てサロン等におけるやさしい日本語でのおはなし会の実施や、安城版ブックスタート事業における多言語パンフレットの配付を行います。また、「Anjo-info」やFacebookを活用した外国人親子への情報発信を検討します。

アンフォーレ本館では、毎年障害者福祉の啓発と推進を目的とした「あんぷくまつり」が開催されます。そこでは手話付きのおはなし会を実施し、障害を持つ子供たちに読書の楽しみを届けます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
ふれあい学級へのサービス	検討	実施
長期入院の子供たちのためのサービス		
外国人向け子育てサロン等におけるやさしい日本語等を活用したおはなし会		
「あんぷくまつり」でのおはなし会		

⑦ レファレンスサービスの充実

図書情報館の職員は、受付で子供を待っているだけでなく、積極的にカウンターの外に出てフロアワークやレファレンスサービスに取り組みます。

図書館利用に不慣れな子供は、本の並び方や場所が分からない、事典等の引き方が分からない、宿題の調べ方や検索機の使い方が分からないなど、多くの悩みや不安を抱えていることがあります。職員は、子供の様子をよく観察し、干渉や押し付けにならないよう注意しながら、質問や疑問に耳を傾け、的確に回答し子供と本を結ぶ役割を果たします。



【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
レファレンスサービスの件数(単年度)	4,944件	5,200件

⑧ 子供が求める資料に容易に出会える排架の充実

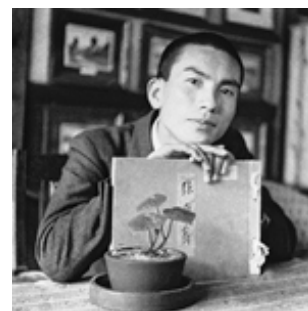
図書館では、子供が目指す本に出会えるように、本の並べ方に様々な工夫をしています。例えば絵本では、ノンフィクションの分野は内容によって分類番号を付与したり、「のりもの」「昔話」「クリスマス」など利用の多いテーマはコーナーを設けたりするなど、子供たちが興味を持つ図書へのアクセスを容易にしています。また、学校での授業内容に合致するように、教科書に載っている本を学年別にまとめています。



今後子供たちの生活環境や興味に合わせた排架を臨機応変に行い、利便性を高めます。

⑨ 新美南吉の顕彰活動の推進

童話「ごんぎつね」などで知られる新美南吉は、昭和13年4月に安城高等女学校の教師として安城に赴任しました。南吉が安城で過ごした5年間は、経済的、精神的に充実しており、代表作といわれる多くの作品を書いた時期でした。安城時代は南吉の短い生涯の中で最も輝いた青春時代と言えます。このことから、安城市では新美南吉を郷土ゆかりの童話作家とし、まちづくりや絵本大賞などを実施して顕彰しています。



そこで、小学生には新美南吉に親しんでもらうため、生い立ちや作品、本市との関わり等をテーマに授業を行う「南吉出前授業」を実施しています。今後もこれを継続し、南吉作品の更なる普及に努めます。

また、平成25年（市制60周年）より実施している「安城市新美南吉絵本大賞」は、新たな南吉絵本を全国公募し大賞を決める5年毎の事業です。大賞作品は販売するとともに、安城版ブックスタート事業において配付します。「安城」と「南吉」を全国に発信し続けることで、安城の地での新たな絵本作家の誕生と南吉作品の普及を推進します。

人間の心に深い理解と愛情を示した新美南吉の童話は、子供の心の成長の一助となります。図書ばかりでなく、からくりBooks『童話作家 新美南吉物語』も利用し、今後も子供たちに南吉の作品を手渡していきます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
南吉出前授業の実施(単年度)	3校	3校以上

施策(3) 学校等(小中学校、保育園・認定こども園、サルビア学園、児童クラブ)における読書活動の推進

⑩ 学校での読書活動の推進

小学生、中学生の年代は、本を読む力をつけるとともに、読書の幅を広げたり、学習活動に図書を利用したりする機会が増える時期です。学校図書館は彼らの一番身近な図書館で、だれもが気軽に利用できる場所です。学校図書館では、子供たちの読書活動を推進するため、「朝の読書」^{※18}や「読書まつり」等を実施し、子供が図書に関心を持ち、将来の読書や情報収集、図書館利用のスキルを身に着ける環境を整えます。



また、本を一人で読むだけでなく、友達同士で本の楽しみを共有できるよう、読み聞かせボランティアによるおはなし会を継続していきます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
学校図書館(小中学校)の貸出冊数(単年度)	301,882冊	310,000冊

⑪ 保育園・認定こども園、サルビア学園での読書活動の推進

子供にとって、一日の多くの時間を同年代の子供たちと過ごしている園での取組は、本と関わるよい機会となります。安城市立の各園においては、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「児童発達支援ガイドライン」に基づき、園での日々の生活の中で絵本や物語に親しむ活動を推進します。そのため、平成23年度より行っている読み聞かせボランティアと図書館職員による「出前おはなし会」を今後も継続します。



令和元年度からは「政策支援サービス」^{※19}として、市役所各課から予約された図書を届けるサービスを開始しました。このサービスを有効活用し、園にはない図

書を気軽に利用できる方法を検討します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
「出前おはなし会」の開催回数(単年度)	151回	250回

※現況・目標の開催回数は、令和3年度当初に社会福祉法人安城市こども未来事業団に移管する14園を除いた、市立14園の取組みを対象とします。

⑫ 児童クラブでの読書活動の推進

児童クラブとは、保護者が仕事などで昼間家庭にいない小学校の児童を対象に、遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る事業です。家庭的な雰囲気の中で友達と遊んだり、勉強タイムで宿題をしたりして、保護者が迎えに来るまで楽しく過ごします。



ここでは放課後児童支援員により、本に親しむ時間や取り組みを行っています。今後はさらに読書活動を充実させるため、夏休みに図書館による図書の定期配送を実施します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
児童クラブへの夏休み配送貸出	検討	実施

基本方針2 読書環境の整備、関係機関等との連携・協力体制の整備

施策(4) 図書館等の環境整備

⑬ 児童書の充実

図書館資料を充実させることは図書館の根幹であり目的でもあります。特に子供を対象としたものは、蔵書冊数だけでなくその質が大切です。新鮮さを保ちながらも、読み継がれている良書は同じ本を多く揃え、子供たちの利用に常に応えられるようにしています。選定は収集方針に基づき、受付やフロアワーク、おはなし会での反応を加味しながら子供たちにふさわしいものを選んでいきます。現在、図書館情報館、公民館図書室等の開架には約17万冊の児童書がありますので、その内の6%程度にあたる約1万冊を毎年刷新します。選書担当者は、児童書に対する知識と見識を生かして適切な蔵書構成を目指します。



【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
児童書の購入冊数(単年度)	11,726冊	10,000冊以上

⑭ 幅広い外国語の図書資料の充実

本市には、7,699人(令和元年度末)の外国人が生活してします。国籍別の人口は、1位ブラジル、2位フィリピン、3位中国、4位ベトナム、5位韓国・朝鮮となっています。また、外国籍の子供の人口は、0歳～4歳が441人、5歳～9歳が417人、10歳～14歳が365人、15歳～19歳が379人となっています。



これらの子供たちが母国語での読書が楽しめるように、外国語の絵本、児童書を引き続き充実させます。また、これらの資料が十分活用されるように、関連機関や団体等へのPRにも努めます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
外国語の児童書の蔵書冊数	2,292冊	2,500冊

⑮ 「らBooks」の充実

図書館には、ヤングアダルト向けを中心とした独自のジャンル「らBooks」があります。ヤングアダルト世代は、興味関心や娯楽が多岐にわたり、学習課題や将来への夢や不安を抱えているなどの特徴があります。また、本を図書館で借りるより個人で購入したり、友人から借りたりすることも多く、インターネット、SNS、動画などから様々な情報を入手しているという特徴があります。さらに、先に述べたように、高い不読率も懸念されます。



現在「らBooks」は、図書館に約2万冊あります。そのうちの8%程度を毎年刷新することで、彼らにとって魅力的であるとともに、潜在的な要求に応えられる図書資料を計画的に揃えます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
「らBooks」の購入冊数(単年度)	1,534冊	1,500冊以上

⑯ ICTの利用促進

平成27年3月に策定された「安城市図書館 ICT化基本構想」に基づき、平成29年6月に図書館を開館しました。

図書館では、インターネット閲覧用のパソコンやタブレット端末の貸出、電子絵本や「からくりBooks」の導入、電子書籍の受入れをしました。これらの機器を適切に管理・更新し、電子ならではの良さを生かした資料を収集していきます。



また、借りた本の情報を記帳できる読書通帳機を導入し、貸出履歴を目に見える形にすることで、読書意欲を喚起し、読書習慣の促進を図っています。今後も子供たちの読書意欲が一層向上するよう、利用の多い公民館図書室への機器の設置を検討します。

現代の子供たちはWebサイトやSNSからも情報を入手しているため、図書館公式Webサイトの子供向けページの充実を図り、読書や本に関する情報発信の検討も行います。

さらに、市内全児童生徒に配付されるタブレット端末を活用した読書推進の取組を学校教育課とともに検討します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
電子図書館へのログイン人数(18歳以下) (単年度)	151人	250人

※ログイン人数とは、単年度に電子図書館へ1回以上ログインがあった者の数

施策(5) 学校図書館(小中学校)の環境整備

⑰ 「図書標準」全校達成の維持

平成25年度より学校司書を配置し環境整備を行った結果、全小中学校において、「図書標準」を達成しました。

学校図書館には、自由な読書活動の場である「読書センター」としての機能と、情報の収集・選択・活用能力を育成して、教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」としての機能が求められています。これらの機能を持たせていくために、今後も計画的な図書資料の受入れと除籍を行います。



【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
学校図書館の「図書標準」達成校	全小中学校	全小中学校

施策(6) 関係機関・団体との連携・協働

⑱ 学校図書館との連携の充実

平成29年度より学校図書館支援室を設置し、学校図書館との連携を行っています。

公共図書館と各学校図書館の書誌データ※²⁰を統合し、学校図書館から公共図書館の資料を一括検索できるようにネットワーク化を行いました。各学校には、学校図書館システム端末2台と検索機が設置されています。



また、全小中学校29校に週2回図書情報館からの配送便が回るようにし、学校から依頼された本が早ければ翌日に届くようになりました。配送便で届ける図書は3種類あり、朝の読書や学級文庫で活用する「朝読便」、調べ学習のための「テーマ

便」、個別に予約された「キーぼー便」です。これにより、連携以前の平成28年度と令和元年度を比較すると、学校への団体貸出は小学校・中学校合わせて26,207冊から134,918冊となり5倍以上伸びました。

今後も学校図書館と連携し、迅速で的確な資料の提供と適切な機器の維持管理を行っていきます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
学校(小中学校)への団体貸出冊数(単年度)	134,918冊	140,000冊

⑱ 市役所関係各課との連携の充実

子供の読書を推進するためには図書館だけでなく、積極的に市役所関係各課と連携を図り、よりきめ細かな子供の読書環境の充実に努めていくことが必要です。現在、子育て支援課とは保護者向け講座での講師派遣、子ども発達支援課や保育課とは出前おはなし会、健康推進課とは安城版ブックスタート事業の実施、学校教育課とは学校図書館連携、生涯学習課とは公民館図書室の運営など、様々な課との連携を行っています。



今後も引き続き、これらの課と連携を図るとともに、それ以外の課との連携の可能性を積極的に探り、全市的な子供読書活動推進に取り組んでいきます。

⑳ 読み聞かせボランティア等との協働

子供に本を手渡す大人は一人でも多いほうが効果的です。そのためには子供の本に精通した民間団体の協力も不可欠です。図書館では50年以上前から子供の本に関心を持った市民による読み聞かせボランティアを受け入れてきました。また、平成4年度から読み聞かせボランティア養成講座を実施し、子供の本について知識と見識を持つボランティアグループの活動を支援してきました。



今後もグループの活動を尊重するとともに、協働して子供の読書活動の充実に取り組んでいきます。

基本方針3 読書活動を支える人材の育成

施策(7) 保護者、読み聞かせボランティア等の読書に対する意識の向上

① 保護者向け講座の充実

子供の読書習慣を定着させるには、最も身近な存在である保護者が、積極的に子供の読書活動に関わっていくことが重要です。



図書館において、乳幼児の保護者を対象に、絵本の選び方や読み聞かせの方法を紹介し、子供の読書の楽しさや大切さを伝える講座「子どもと絵本を楽しもう」や「赤ちゃんとなによもう会」を今後も継続して行います。また、公民館、児童センター、保育園等において、子供の読書への理解と関心を高める講座を実施します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
児童センターにおける保護者向け講座の開催(単年度)	5か所	全9か所

② 読み聞かせボランティア等の養成とスキルアップの支援

図書館では子供の読書活動を支える人材の育成を図るため、ボランティアの養成やスキルアップの講座を実施しています。各ボランティアグループは、図書館や公民館のほか、児童センター、学校、保育園等でもおはなし会や、ストーリーテリング^{※21}等の様々な活動を展開しています。



しかしながら、ボランティアの会員数は年々減少の傾向にあります。子育ての中で子供の本に出会い、家庭で子育てをしながらボランティア活動をするという形態から、出産後も仕事を継続する女性が増加し、ボランティア活動ができない状況が一般的になったことが要因と思われます。今後の養成講座では、シニアを対象を絞るなど、年代、内容、回数等、将来のボランティア活動に繋がりやすい講座に変更することを検討します。また、長年のボランティア活動では、モチベーションの維持と新しい知識の獲得が必要になりますので、今後もスキルアップ研修を継続します。

さらに、学校で活動するボランティアを支援するため、読み聞かせや本の補修等の研修会を開催し、連携と活動状況の把握に努めます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
ボランティアを対象とした講座の実施回数 (単年度)	3回	3回以上

施策(8) 学校司書等の継続と図書館情報館職員の育成

㉓ 学校司書の全校配置と図書館教育アドバイザーの配置

学校図書館が機能を十分に発揮していくためには、子供の読書相談等に対して専門的な対応ができる知識や技術を備えた司書教諭や専任の学校司書の配置、それをまとめる図書館教育アドバイザーが必要となります。



司書教諭については、学校図書館法によって、平成15年度から12学級以上の全ての学校に配置することが定められており、本市でも配置が完了しています。

学校司書については、平成25年度から配置されはじめ、令和元年度では29校中27名の配置となりました。しかしながら、まだ、2名兼務していますので、各学校1名の配置を目指します。

また、図書館教育アドバイザーは、学校司書をまとめ、学校図書館連携の中核となり、図書館情報館と学校図書館との連携も担うなど大変重要な役割をもちますので、今後も配置を継続します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
学校司書の配置	27名	29名 (全小中学校に専任1名)
図書館教育アドバイザーの配置	継続	継続

㉔ 図書館情報館職員のスキルアップのための研修

子供の読書活動を推進するためには、その役割を担う図書館情報館職員の育成が重要です。常に子供の置かれた状況や子供の本の情報、知識を獲得しサービスに生か

すために、館内の研修を今後も継続して実施します。

また、愛知図書館協会が主催する「児童サービス研修」や、国立国会図書館、日本図書館協会などの関連機関が行う研修にも積極的に参加し、その成果を子供の読書活動推進に役立てます。



【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
全体研修の実施回数(単年度)	11回	11回